

名の崎物語

第 114 号
令和 8 年 3 月 1 日
発行
茨城県古河市
名の崎会広報部会



ご挨拶 2026年々々


名の崎会会長 染野 則夫

名崎にお住まいの皆様、日頃より、名の崎会に対しまして、ご支援、ご協力、また、イベントに参加、ふれあい、楽しみ、盛り上げていただきまして誠に有り難うございます。

昨年は、名の崎まつり、グラウンドゴルフ大会、自主防災訓練、サンタ宅配などの事業（イベント）を実施する事ができました。

何れも、多くの皆様のご支援ご協力により盛況に開催することができました。誠に有り難うございます。衷心より感謝申し上げます。

さて、昨年 11 月 30 日に名崎小学校において開催しました「第 8 回名の崎会・第 20 地区名崎区長会共催 自主防災訓練」について、お話させていただきます。

茨城西南広域消防三和分署（関口分署長）・古河市防災監石井博之様のご協力、古河消防署（松下署長）をお迎えし名崎地区各種団体の皆様のご協力・ご支援により実施致しました。

自主防災訓練の目的は、災害の多い日本において、『イザッ、災害発生の際に、防災、減災、そして、生命・財産を守る』事にあります。

- (1) 私たち 1 人 1 人が、しかも 1 人でも多くの人が、「防災・減災・命を守る知識を身につけておくこと。
- (2) 繰り返し、反復して訓練・経験して、しっかりと身につける。
- (3) (2) での訓練・経験の知識を活かして、迅速に、正しい行動、活動する。
- (4) 家族、隣近所、行政区の皆さんと日頃の融和、協力・連携により、対処・活動。

「11 月 18 日大分県大分市佐賀関に於いて、「大分市大規模火災」が発生、4.9ha (4.9 町歩)、180 棟以上に延焼、大風、しかも道路は狭く、消防自動車が入れなく消火に苦戦、そんな中ですが、犠牲者 1 人でした（ケガ人も数人程度）とのこと。

その大きな要因は、市民の皆さんの協力・助け合い、お年寄りのオタクに避難しましょうと声をかけ、補助し、助け、避難がスムーズにできたから、との事です。」

日頃の訓練、市民の皆さんの良いお付き合いなど、「命を守る」事ができた！

- (1) 自助 自分の命は、自分で守る
- (2) 共助 隣近所、コミュニティで、協力、助け合う、声を掛け合う
- (3) 公助 市、県、国などの支援

今後も名の崎会は、区長会と共催・連携して自主防災訓練を実施致しますので 1 人でも多くの皆さんに参加いただき、「命を守る、財産を守る」備えを、名崎市民全員で、いざっ災害発生時、防災、減災、命を守る行動を身につけましょう！！



名崎サンタ宅配便 2025 12月21日



12月21日、生活部会で名崎サンタ宅配便を行いました。
 準備中は、どんなものが喜ばれるだろう？や当日は、突然サンタが来たらびっくりするかな？と不安だらけでしたが、いざ各家庭を周ると皆「わぁ！サンタさんだ！」と笑顔でプレゼントを受け取ってくれる姿に、それまでの不安が吹っ飛んで あぁやって良かったな と思いました。
 名崎サンタに携わって下さった方々へ、ご協力ありがとうございました。来年もまた良い笑顔が生まれますように！（生活部会長 塚原 英香）





古河市中学生の主張大会

市内中学生が、日常生活や社会の動向、将来の古河市や日本の在り方など、日頃から考えていることを発表する「古河市中学生の主張大会」。令和7年12月2日の開催で第16回目となるこの大会に、名崎地区から二人の生徒が参加して自らの意見を発表しました。

「つながりが生む未来のまち」 古河市立三和東中学校 2年 やまだ 山田 れん 漣音

「なんて素敵なまちなんだろう」一本のムービーを観終えたとき、私は深く感動し心がふるえました。みなさんは『こがくらす』ブランドムービーを知っていますか。これは古河市が作成した、古河市の魅力がたくさんつまった動画です。令和5年には「地域プロモーションアワード 2023 ふるさと動画大賞」で大賞を受賞しています。その後も様々な部門で表彰されています。総合的な学習の時間にたまたま巡り合ったその動画を観て、私は古河市で育ったことを誇らしく感じました。古河市のことをもっと知りたいと思い、パソコンで検索を続けると衝撃的な事実を知りました。「少子高齢化」の問題です。ニュースなどでよく耳にしますが、古河市にまでその波が押しよせていたことは知りませんでした。こんなにも魅力あふれるまちなのに、少子高齢化が進んでいることに私はショックを受けました。

2000年以降、古河市の総人口は減少し続けています。そのかわり、老年人口割合が増加しており、2020年の高齢化率は約28%と、問題が進行しています。調べれば調べるほど未来への不安が募っていきました。何とかこの状況を打破できないのでしょうか。未婚率の上昇や共働き世代の増加に伴い、託児施設の充実や労働環境の整備など「少子化」に対応する取り組みはよく耳にします。しかし、私はもっと「高齢者」に目を向けて、市の人口増加を図るべきだと考えます。なぜなら高齢者こそ、私たちの暮らしを支える大きな存在だからです。

1年前、私は名崎地区の自主防災訓練に参加しました。その時、普段なかなか関わることのない高齢者の方々と交流することができ、土地の特性や災害時の危険性など、防災の知恵をたくさん教えていただきました。この土地に長く住み続けた方にしか分からない、貴重な知識を得ることができたと思います。何より長年この土地に住み、地震、台風、洪水などから身を守る経験を積んできた方々だからこそその説得力があり、「大きな災害が起こる前にこの話を聞くことができて本当によかった。」と、自分事として考えることができました。

私は、こうした高齢者の強みと少子化対策を掛け合わせた活動はないかと考え、次の2つのことを提案します。

1つ目は、学校での体験学習として高齢者との交流の場を設けることです。私が防災訓練で高齢者の方々から学んだように、市の伝統的な文化や先人の知恵を直接聞ける機会がもっとあるといいと思います。例えば、地域の祭りを活性化させるための政策を中高生が提案し、それに対する高齢者からのご意見をもとに実現に向けて形にしていく、といった協働的な取り組みはどうでしょうか。幅広い年齢層の視点から意見を取り入れることで、誰もが楽しめる居心地の良いイベントになるのではないかと思います。

2つ目は、SNSの効果的な活用です。最初に紹介した『こがくらす』ブランドムービーの存在を、この会場にいるどれだけの人が知っていたのでしょうか。あれほど素敵なお動画なのに、認知度が低いのは非常にもったいないと思います。三和東中学校は学校ブログがとても充実しており、ほぼ毎日更新されています。閉ざされていた学校生活の様子をより多くの人々に届けられるようになりました。ブログを通して私たちの努力や思いが発信されるのは自分を認めてもらえているようで、とても嬉しいです。このように、自分自身、もしくは身近な人が掲載されると、ブログは自然と広まり、閲覧数が増えていきます。この仕組みにならって、若者から高齢者まで幅広い年代の方々が活躍する姿を動画にすることで、古河市の魅力がより多くの人々に広がっていくと思います。そして、「魅力あふれるこの古河市で家族と一緒に過ごしたい！」と思う方が増えていくのではないかと考えます。

「少子高齢化」は誰かが解決してくれる問題ではありません。市役所の方々や私たち若い世代だけが頑張るものでもありません。若い世代、働く世代、高齢者、すべての人々が未来の担い手であり、よりよい社会を一緒につくっていく仲間です。まずは身近な地域に目を向け、人と人との温かいつながりを大切にしながら、明るい未来を一緒につくっていきませんか。

「教壇に立つ日を夢みて」 古河市立三和東中学校 1年 ^{かみの}上野 ^{ことこ}琴子

みなさんには、叶えたい夢がありますか。私の夢は教師になることです。

幼い頃から、本を読んだりテレビを観たりすることが好きで、そこで知り得た雑学や豆知識を友達にたくさん話していました。新しい知識を得ると、知らなかった世界に触れることができ、自分の景色がどんどん広がっていきます。友達と共有することで、その景色と一緒に見るができる気がしました。小学生になってもその感覚は変わらず、算数の解き方や歴史上の人物など、学校で学んだことを友達に伝える時間が楽しくて、説明している自分自身もわくわくしました。「なるほど。そういうことか!」と納得してくれたり、「わかりやすい。ありがとう!」と感謝されたり、自分の頑張りで友達を笑顔にできることがたまらなく嬉しくて、徐々に「将来は教育に携わる職に就きたい」と思うようになりました。

そんなある日、家族で将来の夢について話す機会がありました。私が教師を目指していることを伝えると、驚いたことに兄も同じ夢をもつ仲間でした。兄が教師を目指すきっかけとなったのは、小学校時代のある出会いだったそうです。「小学生の時、週に一度、学習をサポートしてくれる学生が来ていたんだ。」

兄は、丁寧に根気強く教えてくれたその人のおかげで少しずつ勉強のおもしろさに気づき、いつしか「自分も人の役に立つ職に就きたい」と思うようになったそうです。私はそこで初めて「学生サポーター」の存在を知りました。「学生サポーター」とは、教職を目指す大学生を対象とした、市内の小中学校における学習や部活動等の支援を行う人です。古河市でも、コロナ禍が収束した現在、

募集が再開されました。私の周りには、学習や部活動の悩みを抱えながらも、頑張っている友達がたくさんいます。私自身もその一人です。中学校の生活は想像以上に忙しく、毎日が目まぐるしく過ぎ去っていきます。勉強をしながらいつの間にか寝てしまっていたり、部活で思うように動けず挫けそうになったり、悩みは尽きません。そんな不安を抱える生徒たちにとって、同じ学生という立場の人が身近で支援してくれることは、学業面だけでなく精神的な支えとなり、安心にもつながることでしょう。また、サポーター自身にとっても、教育現場の状況を身をもって知り、生徒と直接触れ合える経験は大きな学びの機会になると思います。「支える側」と「支えられる側」がともに成長できるこの活動にとっても魅力を感じました。

名崎小学校、三和東中学校で過ごした私は、自然に囲まれながら、学年の壁を越えてたくさんの友達と関わりをもちながら育ってきました。この古河市で育ったからこそ、友達や日々のささやかなことに対しても温かい眼差しをもち、毎日の生活の中に幸せや感謝を見出せるようになったと思っています。将来は日本全国どこで教師をするかまだわかりませんが、この地域で培った「豊かな心」をもつ教師でいたいです。

これから私ができることは、目の前の勉強を頑張ることはもちろん、「学生サポーター」や教育に携わるボランティア活動に積極的に参加し、学校現場でたくさん学んでいくことだと思っています。そしていつか実現させたいです。兄とともに教壇に立ち、「豊かな心」で一人でも多くの児童生徒を支えられる教師になる夢を。

ユースセンターでの発表の様子



11月30日

自主防災訓練

参加者約500名

古河市防災監 石井 博之

先日は名の崎会防災訓練に参加させて頂き有難うございました。コミュニティの皆様が真剣に(かつ楽しそうに)訓練に取り組まれている姿を拝見し、市の防災担当者としてとても心強く感じました。訓練の中でお話しさせて頂いた通り、地震の際に最も重要なことは「その瞬間と直後に死なない、怪我をしない」ことです。そのためには普段からの備えが大事であり、特に「寝ているところ」が安全になるようチェックをお願いしたいと思います。



石井防災監の講話



ハシゴ車体験



大鍋で豚汁



非常食配布



寒さしのげます



これでいいのかな



いざという時のために「AED体験」



放水訓練

地域の中で育まれる自助・共助の精神

名崎小学校長 石井 美津子

「天災は忘れた頃にやってくる」物理学者でもあり随筆家でもあった「寺田寅彦」(てらだとらひこ)の言葉です。今もなお、防災意識を高めるための警句として語り継がれています。

そこで、重要になってくるのが万一に備えた日頃の備えです。名崎小学校でも、年三回全校児童で避難訓練を実施し、「自分のことは自分で守る」行動様式について繰り返し練習し、啓発を図っております。「いつ」「どこ」にいるときに起こるかは分かりませんから。

11月30日(日)名崎地区の自主防災訓練が本校で行われました。名崎小の児童・三和東中の生徒たちも地域の一人として参加していました。地域の皆様の防災・減災への意識の高さ、ともに安心安全な地域をつくりたいとする自助・共助の精神を本校の「なさキッズ」にも育てていることを大変嬉しく思う地域行事でした。

その防災訓練の日、登下校の見守り協力への依頼の話も改めてさせていただきました。コミュニティ・スクールの学校運営協議委員の皆様を通して、地域の皆様には昨年度から依頼をしてきたところです。お陰様をもちまして、「ながら見守り隊」(何かをしながらでも、できる日だけでも見守り活動をしてくださるボランティア応援団)は、11月30日以降、新たに33名(R7・12末現在)のご登録をいただきました。安心の目印の黄色のベストを着用してご協力をいただいているところです。また、この場をおかりしまして、日野自動車様には、工場西門での立哨と青パトロールカーでの通学路巡回見守りを毎日実施していただいておりますこともご報告させていただきます。皆様、「なさキッズ」のために、誠にありがとうございます。

名の崎会の皆様、地域の皆様、「なさキッズ」応援団として、つづけてのご支援・ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

自主防災訓練を通しての学び

三和東中学校長 荒井 幸枝

この度は、貴重な「自主防災訓練」に、本校生徒が参加させていただき、誠にありがとうございました。地域の方々と共に汗を流した時間は、生徒たちにとって学校の教室だけでは決して得ることのできない、極めて大きな学びの場となりました。

訓練の中で、生徒たちはゴミ袋を利用した簡易レインコート作りなどの「身近な物で命を守る知恵」を学びました。また、地域の皆様との何気ない会話を交わしたりする中で、生徒たちの表情が次第に和らぎ、地域の一人としての自覚と責任感が芽生えていく様子を頼もしく感じました。災害時に最も必要とされる「共助」の精神は、こうした顔の見える関係性の中にこそ宿るものであると、改めて確信いたしました。

この貴重な体験の成果は、思わぬ形でも結実しました。後日開催された「古河市中学生の主張大会」において、本校の代表生徒がこの防災訓練での体験を題材に発表を行いました。地域の方々と触れあう中で感じた「自分たちにできること」への決意を力強く語る姿は、会場の多くの人々の胸を打ちました。また、来賓でいらした方々からは「地域の活動に中学生が主体的に関わっているのは素晴らしい」「これからの地域を担う頼もしい力だ」と、身に余るほどのお誉めの言葉をいただきました。

生徒たちが地域に愛され、認められることは、彼らにとって大きな自信となります。今後も、学校と地域が手を取り合い、互いに支え合える関係を一層深めていければ幸いです。



煙ってこわい



中学生に感謝



かっこいいでしょ



消火器訓練



豚汁大盛況

第23回 名の崎会 9月23日開催 グラウンドゴルフ大会

**個人
大賞**



**団体
優勝**



個人成績

優勝	山腰 栄 様 (下尾崎第一行政区)
準優勝	小島 進 様 (丸山行政区)
第3位	大里 栄 様 (下尾崎第二行政区)

団体成績

優勝	下尾崎第一行政区
準優勝	間中橋行政区
第3位	下尾崎第二行政区

名の崎会 グラウンドゴルフ大会優勝について 下尾崎一行政区 区長 森 澄雄

第23回名の崎会、グラウンドゴルフ大会が83人と多くの参加者のもと開催されました。当日は晴れて暑からず、寒からずの最高の天候で行われました。当行政区からも20人が参加し、「多くの行政区の皆さんと交流が図れた」と楽しそうに話していました。個人で山腰 栄さんが優勝し、多くのメンバーが頑張り、団体優勝を果たすことが出来て嬉しく思います。この大会は、初めての方やこの大会のみを楽しみに参加される年配の人もいます。今後一人でも多くの方が参加し、名崎地区のコミュニケーションが図れるようにすすめてください。



この部分には、地元協力者の
広告が掲載されています。

広告募集中
お待ちしております!!

名の崎会広報部会よりお知らせ
地域の情報、各行政区の活動などの
記事を募集しています。
各行政区の広報部まで
ご連絡ください!!